

今和次郎と雪調が作った文化展

さまざまな暮らしを調査することで、これからの暮らしのかたちを創造していこうとした今和次郎。その今和次郎コレクションの一部が、雪の里情報館に一部寄託されることにあたり、今和次郎を知るとともに、これからの地方の農村に活かすヒントを見つける展示です。

今和次郎は、1888年(明治21年)、青森県弘前市生まれ。昭和初期に急速に大都市化していく東京の街の姿や、当時の地方の人々の様子を採集(観察し、記録する)・分析した「考現学」の創始者として知られています。旧農林省「積雪地方農村経済調査所」(以下「雪調」/現「雪の里情報館」)のトンガリ屋根の庁舎は、建築学者でもあった今和次郎のデザインによるものといわれています。雪下ろしの必要の無い急勾配の屋根は、当時、画期的なものでありました。現在は、雪の里情報館の展示室として保存活用されています。今和次郎が手掛けた建物で現存しているのは、雪の里情報館と福島県にある大越娯楽場の2つだけといわれています。本展示は、工学院大学図書館の今和次郎コレクションの資料を主体に、スケッチ、写真、建築・デザイン図面などを展示。構成は、「今和次郎の人物紹介」「農村調査・民家研究の仕事と雪調の関わり」「雪調と今和次郎の創った文化を後世につなぐために」の3セクションです。



2019.12.22
11:00-14:40
OPENING
EVENT

『今和次郎コレクション 寄託記念シンポジウム』

「雪調」と「今和次郎」の遺伝子を未来につなぐ

[シンポジウム開催場所] 雪の里情報館 2階 雪国文化ホール

今和次郎コレクション寄託に合わせ、今和次郎と新庄の関係性を振り返りながら、積雪地方農村経済調査所および雪の里情報館の歴史的・文化的意義を再定義する。今後、どのように、雪の里情報館に関わる文化を継承・発展させていくかを、「過去～現在～未来」の視点でディスカッションし、道筋を描いていく。

Symposium 1

「雪調」と「今和次郎」の遺伝子を未来につなぐ
～価値の定義～

ファシリテーター：馬場正尊氏

パネリスト：後藤治氏、黒石いずみ氏、沼野夏生氏、山尾順紀新庄市長

- 後藤治氏 「今和次郎コレクションを新庄に寄託する意義」
- 黒石いずみ氏 「今和次郎とは」
- 沼野夏生氏 「雪調・今和次郎が新庄に与えた影響」
- 馬場正尊氏 「雪の里情報館の意義を考える」



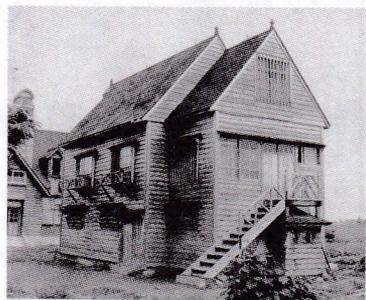
Symposium 2

「雪調」と「今和次郎」の遺伝子を未来につなぐ
～価値の創造～

ファシリテーター：馬場正尊氏

パネリスト：吉野敏充氏、高橋伸一氏、沼野ひろし氏、樋口修氏

- 吉野敏充氏 「ペリアンの活動/今回の展示計画」
- 高橋伸一氏 「民芸の活動について」



Presentation

「雪調」と「今和次郎」の遺伝子を未来につなぐ
～可能性の創造～

新庄東高等学校の生徒と青山学院大学の学生が作成した映像の上映。

[今和次郎と雪調が作った文化展/展示期間]
2019年12月22日(日)-2020年12月20日(日)
開館時間:9時00分～17時00分(月曜定休)

[場所] 雪の里情報館 雪国ライブラリー
〒996-0086 山形県新庄市石川町 4-15

[お問い合わせ]

TEL.0233-23-5005 [新庄市社会教育課]

主催:今和次郎コレクション寄託活用事業実行委員会

主管:新庄市教育委員会

協力:学校法人工学院大学

